

# NMSH Topics 26 VOL.

February 2019

今月の 院長のイチオシ

口腔科(周術期)

## 医科と歯科の密な連携を強みにきめ細かに対応

### 周術期の徹底した口腔内の衛生管理が特徴

口腔科(周術期)は、院内の患者さんの口腔内管理を充実させるため、2015年4月に附属病院に新設されました。今や、疾患の治療に医科と歯科の連携は必須となっています。口腔内の細菌はう蝕や歯周病の原因となるのはもちろん、肺炎や敗血症などの原因ともなります。特にがんなどの病气療養中の患者さんでは、口腔内のトラブルが全身にも波及しやすいため注意が必要です。

私たちは、手術を行う患者さんに対しては、術後肺炎や創部感染を防ぐため、術前から術後にかけて、口腔内の衛生管理を徹底して行い、脱落の危険がある歯の処置などを行っています。化学療法を行う患者さんや、骨吸収抑制薬を使用する予定の患者さんにおいては、骨髄抑制時の感染や顎骨壊死の発症を少なくするために、前もって感染源となる歯の治療を進めています。また、できてしまった口腔粘膜炎に対しては、で

きる限り早く対応し、二次感染予防と、痛みの軽減に努めています。その他、入院中の義歯や詰め物のトラブル等にも対応していますが、治療を継続するために地域の歯科医院を紹介する場合があります。

日本医科大学附属病院では、歯科の処置を医科の先生方と直接相談しながら進めることができるため、きめ細かな対応が可能です。患者さんの中には口の中に関心があまりなく、未治療の歯を放置し、衛生状態が不良の方もいます。口腔科(周術期)は、口腔内の番人となって、口腔衛生管理や歯科治療を通して、患者さんの医科での治療が円滑に進むように支援しています。

今後も医科の先生方、また地域の歯科の先生方との連携を強めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



左：歯科医師と歯科衛生士で協力して診療を行っている

右：診療室が新しくなって1年。治療ユニット間には仕切りを設けてプライバシーに配慮

